

漁海況情報

平成 24 年 12 月 7 日 第 20 号 (通巻 514 号)

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎 2861-3

TEL:0837-26-0711 FAX:0837-26-1042 Mail:a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

海鳴りネットワーク :<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16500/uminari/uminari-top.html>

【ヨコワ（クロマグロ幼魚）漁況予報】

今年度漁期（平成 24 年 11 月から平成 25 年 2 月）における山口県漁協萩地方卸売市場のヨコワ水揚量は「前期を下回る」でしょう。

<予報の考え方>

山口県日本海側におけるヨコワ漁は、南西諸島周辺や日本海で生まれたクロマグロ幼魚（当歳魚）が北上した後、水温の低下とともに南下してきた群を漁獲しています。

現在、ヨコワの漁況にどのような要因が影響しているのか調査・分析しているところですが、今のところ以下の項目が影響していると考えられましたので、これらを根拠として予報を行いました。

<予報の根拠>

1) 今期発生群の資源量

高知県の 0 才魚漁獲量から推定される南西諸島周辺生まれの資源量と、島根県の 0 才魚漁獲量から推定される日本海生まれの資源量は、いずれも前期を下回っていると考えられます。

2) ヨコワの滞留条件

山口県沿岸・沖合の表層水温は、今後 3 月まではやや高めで推移すると予想されていることから、ヨコワの滞留にはプラス要素になると考えられます。しかし、胃の内容物の調査からヨコワの主要な餌の一つと考えられるウルメイワシの漁場は、現在、見島周辺に形成されていません。

以上より、ヨコワの滞留条件はやや良好であるものの、今期発生群の資源量が前期を下回っていることから、今期の水揚量は前期を下回ると予測されました（図）。

※下図の予測値の計算には、水産庁国際資源評価等推進事業での取得データを使用

